

研究・調査報告書

報告書番号	担当
95	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Associations between depression, distress tolerance, delay discounting, and alcohol-related problems in European American and African American college students. ヨーロッパ系アメリカ人、アフリカ系アメリカ人大学生における、うつ病、苦痛の耐性、遅延割引率とアルコール関連問題との関連の検討	
執筆者	
Dennhardt AA, Murphy JG.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Psychol Addict Behav. 2011;25:595-604.	
キーワード	
アメリカ人、うつ病、苦痛、アルコール	
要 旨	
<p>背景： 大学生における過度の飲酒水準とアルコール関連問題は多く報告されているが、アルコール中毒の大学生においてさえ、その数および問題の類型は多岐にわたっている。アフリカ系アメリカ人の学生は、ヨーロッパ系アメリカ人と比較して、飲酒量もアルコール関連問題も少ないとされているが、リスクは存在し、しかしその潜在的な傾向と問題の予測因子は十分に検討されていない。うつ病、苦痛の耐性、遅延割引率は成人の薬物乱用において影響を受け、大学生においてアルコール問題の重要な予測因子となっている可能性が高い。</p> <p>方法： 最近アルコール中毒と報告されているアフリカ系アメリカ人とヨーロッパ系アメリカ人 (206 人、53%女性、68%ヨーロッパ系、28%アフリカ系)において、うつ病、苦痛の耐性、遅延割引率とアルコール関連問題との関連を検討した。回帰モデルを用いて、飲酒の程度を調整した。但し、うつ病については、ヨーロッパ系アメリカ人のみで検討を行った。</p> <p>結果： これら大学生において陰性感情はアルコール関連問題にとって重要な危険因子であった。アフリカ系アメリカ人にとって、うつの行動に対する耐性の不能と将来のアウトカムにおける行動の組織化は特に有意な危険因子となる可能性を認めた (1 週間の飲酒量および収入を調整後、遅延割引率とアルコール問題における pearman の相関係数の P 値 =0.023)。</p> <p>結論： うつ病、苦痛の耐性、遅延割引率は成人の薬物乱用において影響を受け、大学生においてアルコール問題の重要な予測因子となっている可能性が高い。</p>	